

各学校におけるボランティア活動 に関するアンケート 結果報告書

令和8年

社会福祉法人宇都宮市社会福祉協議会

調査概要

1. 調査目的

- ・市内の各高校等のボランティア活動を把握するため、アンケート調査を実施する。

2. 調査対象

- ・市内高等学校 15箇所
- ・専門学校 11箇所
- ・特別支援学校 8箇所

3. 調査項目

- (1)～(3) ボランティア活動や地域活動の取り組みについて
- (4)～(7) 部活動・その他団体の取り組みについて
- (8) 学校全体での取り組みについて
- (9) ボランティア活動や地域活動の周知・案内・推進について
- (10) 市社会福祉協議会について

4. 調査方法等

- ・実施時期 令和7年12月～令和8年2月
- ・アンケート手法 Googleフォーム（フォームリンクのメール送信）

5. 回答数・回答率

26名・74.3%

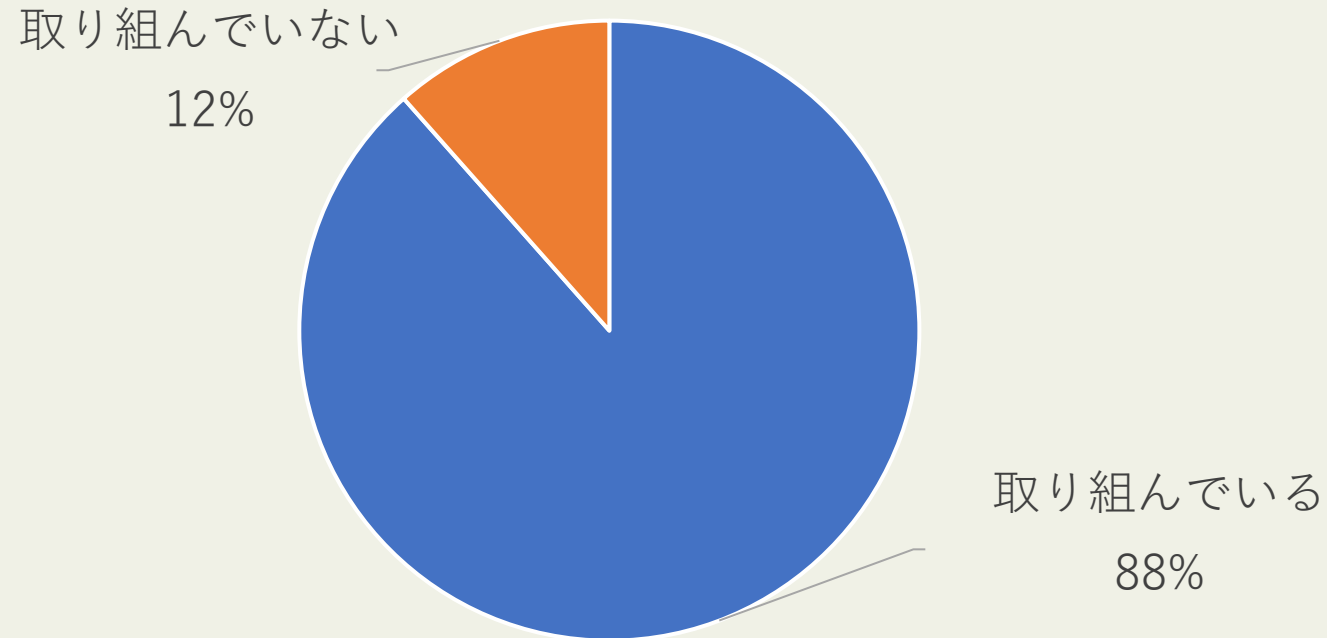
6. 集計方法

無回答は母数に入れない。

1-4 ボランティア活動や地域活動に取り組んでいるかどうか

<集計結果>

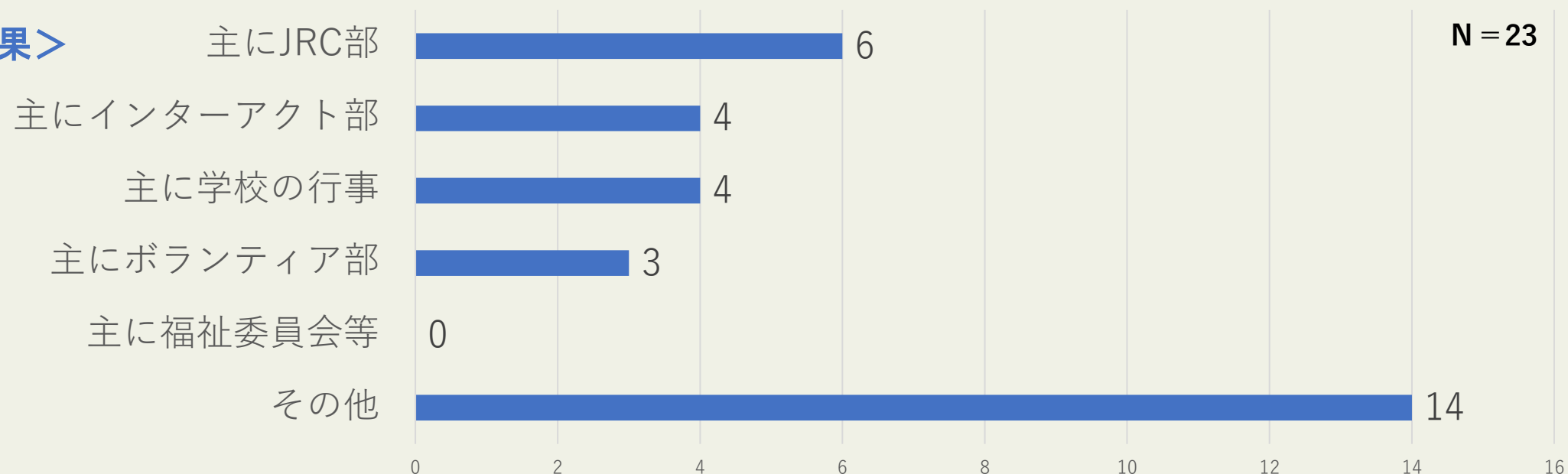
N = 26



- ・ 取り組んでいる : 88% (23校)
- ・ 取り組んでいない : 12% (3校)

2-1 ボランティア活動や地域活動に主に取り組んでいる単位について

＜集計結果＞

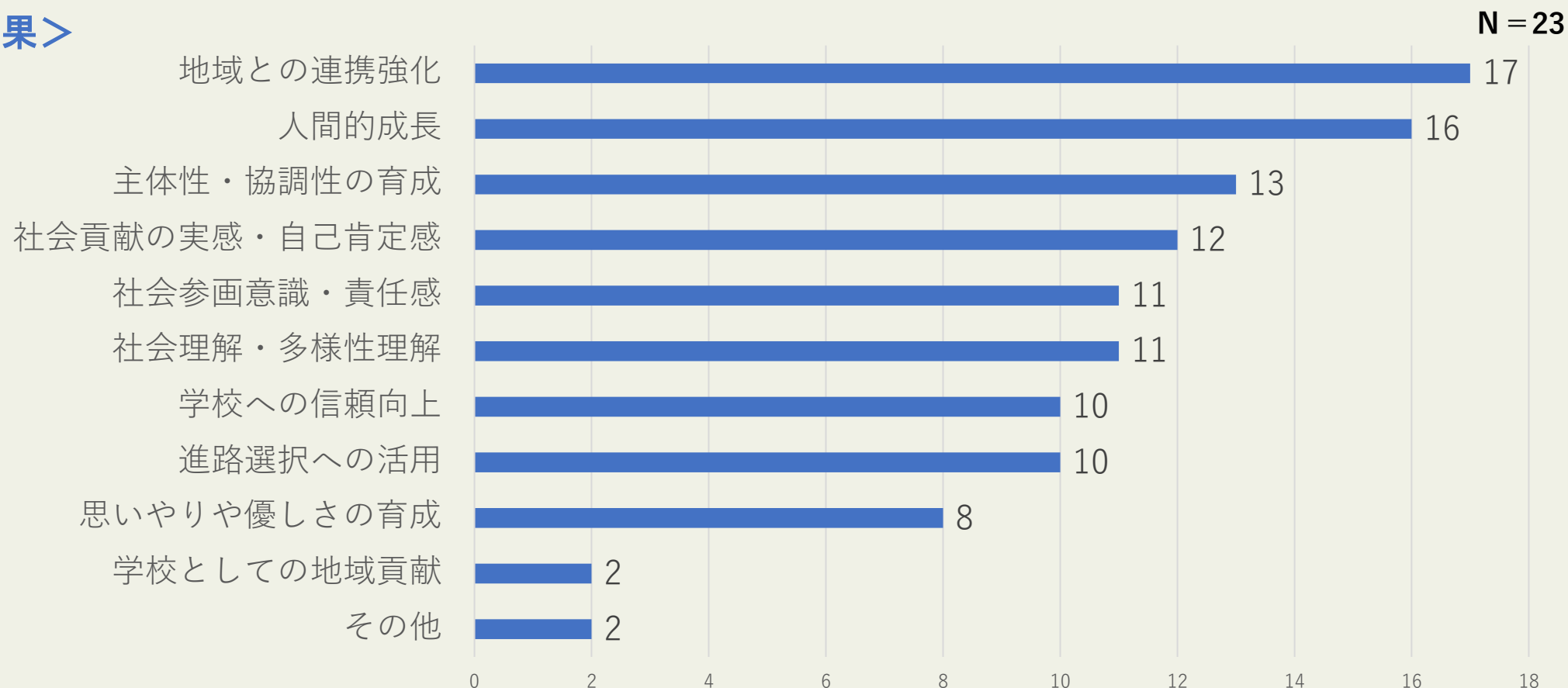


[その他の回答]

- ・ 校内呼びかけやチラシ・ポスター、プレゼンで周知し希望者を募っている。
- ・ 行事ごとに全学生へ告知し、希望制で参加。
- ・ 生徒会・部活動・家庭クラブ・委員会など組織単位でも参加。
- ・ サッカー部は愛ロード活動として継続的に参加。

2-2. ボランティア活動や地域活動に取り組んでいる理由

＜集計結果＞



〔その他の回答〕

- ・ ボランティアを目的として創部された部活動であり、生徒の参加意欲が高い。
- ・ 地域活動を通じて学校への認知や理解が深まる。

生徒側のメリット

中心となるのは「成長・経験・社会理解」

 人間的な成長

 多様な経験

 社会への理解を深める

学校側のメリット

中心となるのは「地域連携・進路支援」

 地域との連携強化

 進路選択への好影響

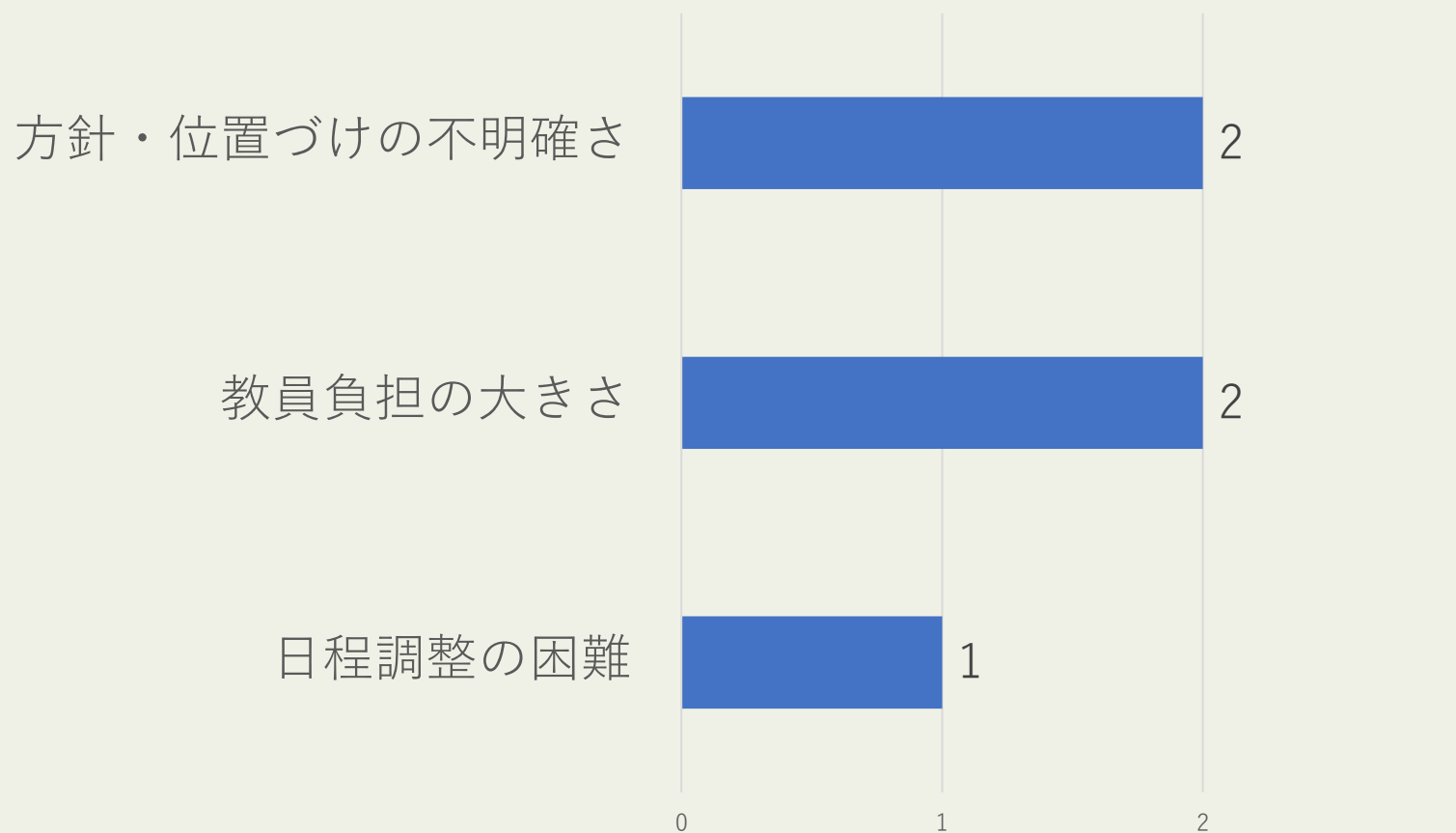
■生徒側では、活動を通して人としての成長や多様な経験が得られ、社会への理解が深まるメリットがあると教員が考えていることが読み取れる。

■学校側では、地域とのつながりが強まり、進路選択にも良い影響が生まれるということが読み取れる

3-1. ボランティア活動や地域活動に取り組めていない理由・課題（学校側の課題）

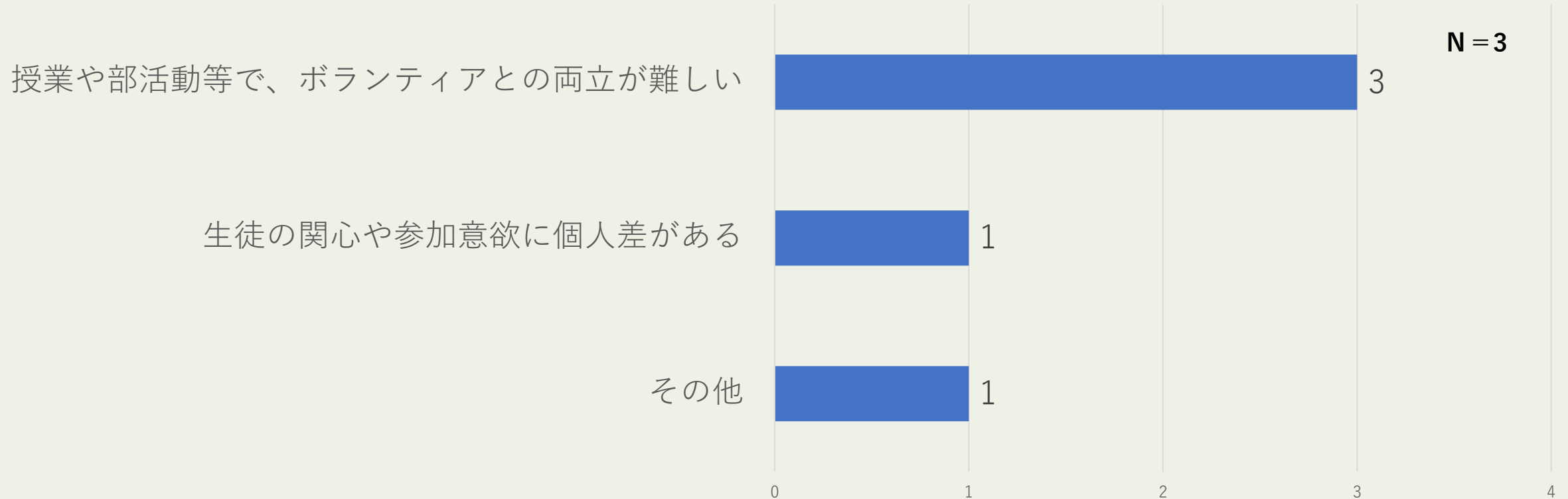
N = 3

＜集計結果＞



3-2.生徒側の課題

<集計結果>



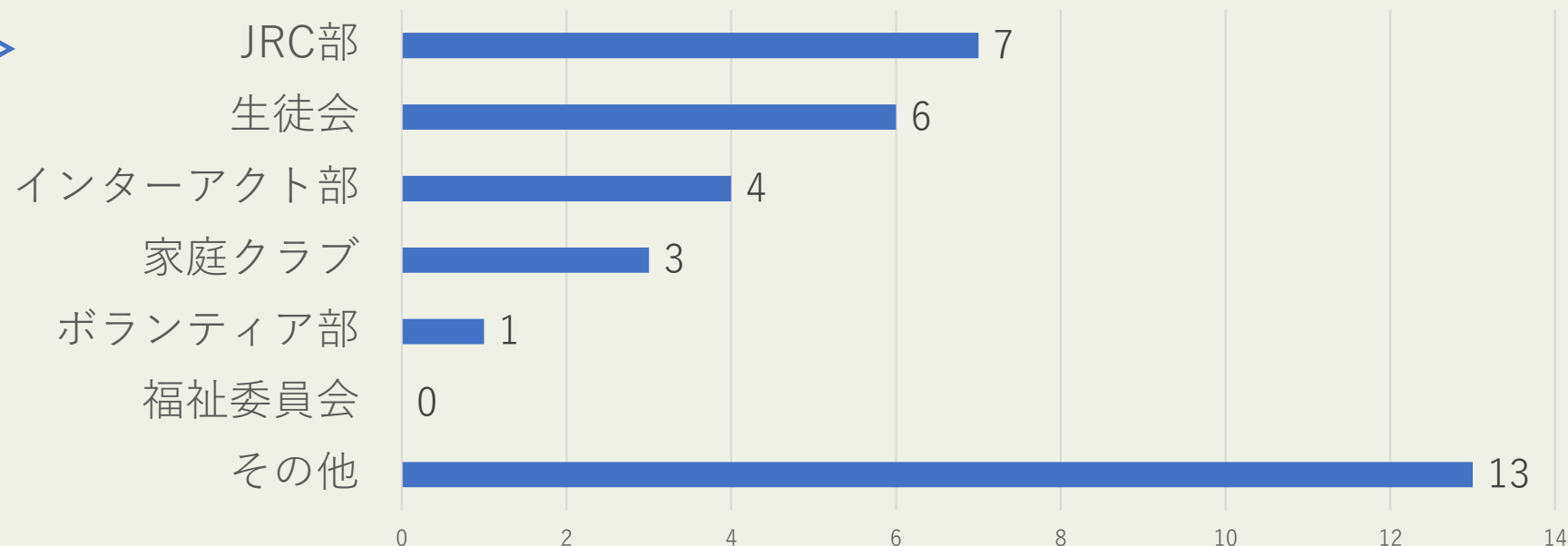
[その他の回答]

- ・仕事と学業を両立している生徒もあり、参加が難しい。

4-1. ボランティア活動や地域活動を行っている団体

N = 21

<集計結果>



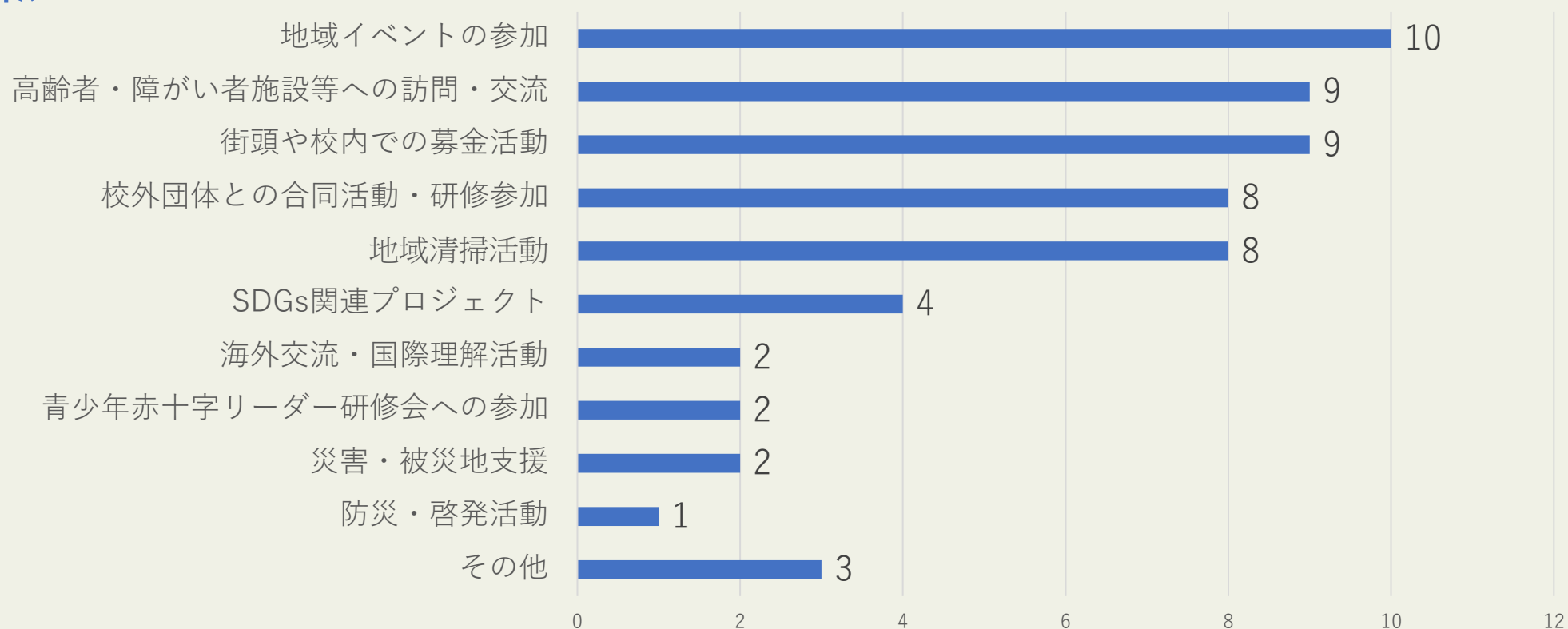
[その他の回答]

- ・ 学校祭委員会、エコ委員会、ボランティア委員会、環境美化委員会。
- ・ ボランティア参加は生徒の個別判断で、希望者をその都度募集。
- ・ 学校行事・授業・作業学習としての参加。
- ・ 1年生全体や学校全体で取り組む。
- ・ 地域交流ボランティア、サッカー部、社会創作部、各部活動が参加。

4-2.4-1の具体的な活動内容

<集計結果>

N = 21



[その他の回答]

- ・学童への訪問・交流や特別支援学校との交流会を実施している。
- ・地域の緑化活動に取り組んでいる。
- ・飲酒運転防止や交通安全の立哨活動、YMCAからの募集活動などを行っている。

5-1.学校としての地域活動やボランティア活動

N = 21

<集計結果>

地域清掃・環境 美化（9件）

- 駅周辺清掃
- 点字ブロック清掃
- リサイクル活動 など

福祉・高齢者施 設交流（7件）

- 福祉施設交流
- 高齢者・障がい者
施設訪問
- 聾学校交流 など

地域行事・イベン ト参加（6件）

- 地域行事出展・
イベント参加
- マラソン・ロードレース支援
- 留学生交流会 など

募金・チャリティ （5件）

- 校内募金
- 希望者募金
- ペットボトルキャップ回収
など

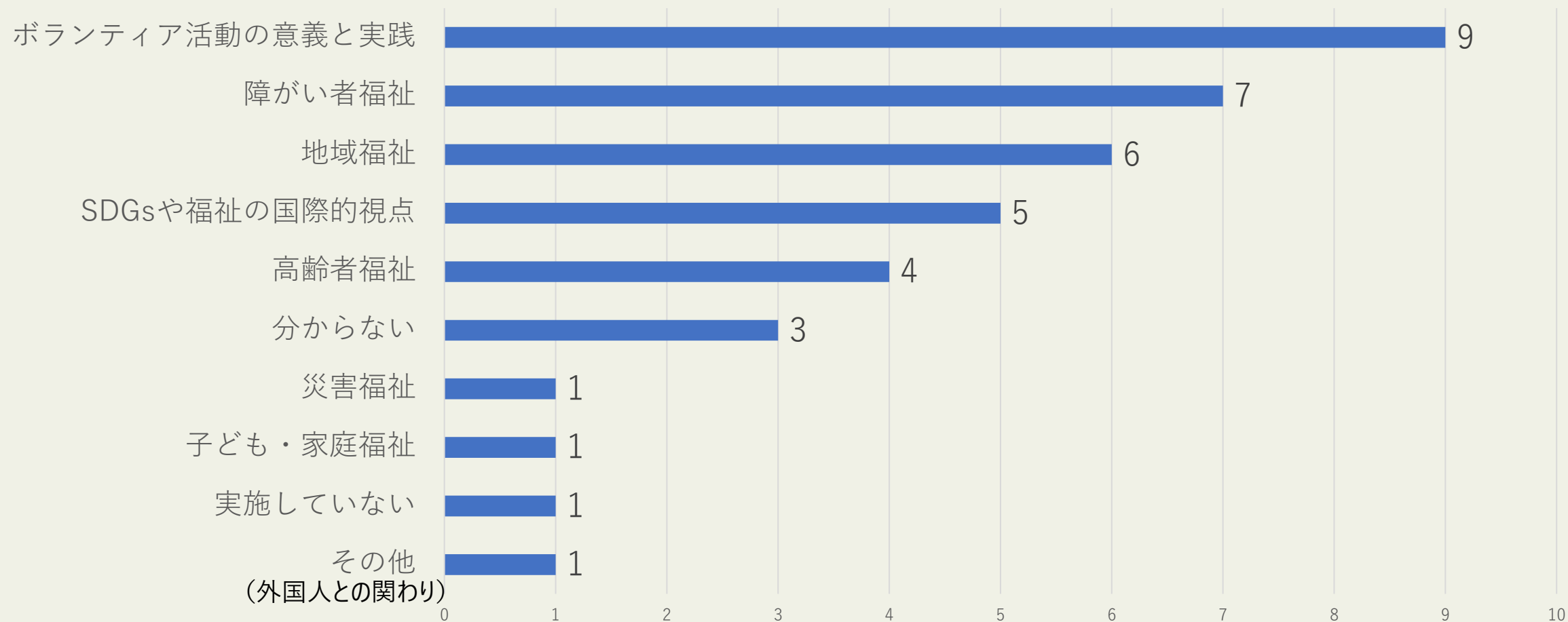
福祉学習・講座 （4件）

- 福祉講演会
- 福祉施設訪問学習
- ボランティア養成講座
など

5-2.学校で実施した地域活動やボランティア活動のテーマ

＜集計結果＞

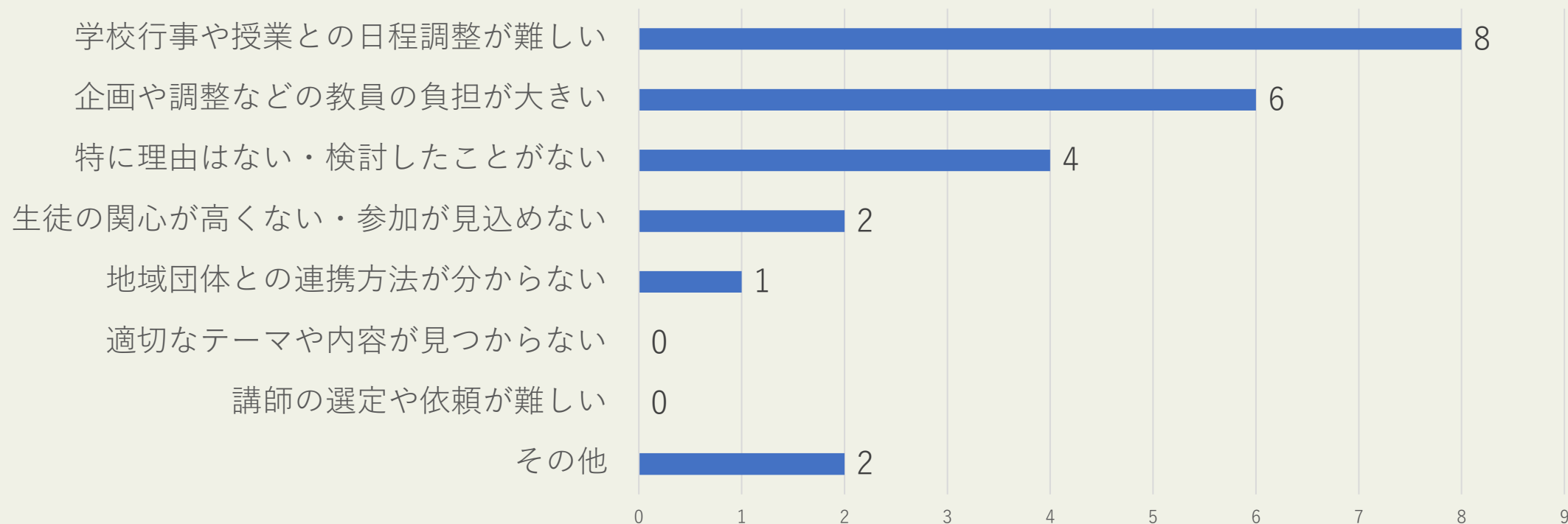
N = 21



5-3.学校で実施したボランティア活動や地域活動に対する悩み・課題

<集計結果>

N = 20



[その他の回答]

- ・回収作業の管理・指導に手間がかかり、一部の生徒に負担が生じている。
- ・特になし。生徒の判断で積極的に参加している。



教員の負担



日程調整の負担



企画や調整などの教員の負担大

■教員の負担は「日程」や「企画」などの調整

教員は多忙な中で、活動先との連絡調整や引率といった“運営の裏方”まで担っており、ここが大きな負担となっている

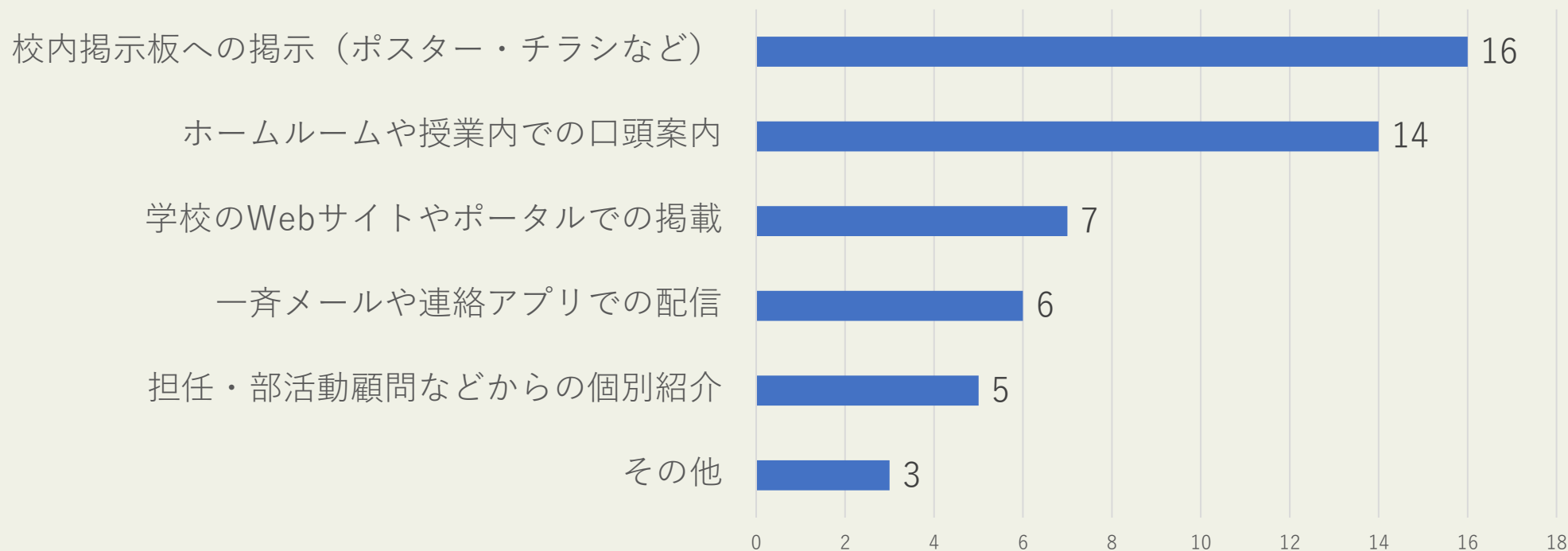
■生徒参加を増やすには外部がこの負担を引き受ける仕組みが必要

市社協などの外部機関が調整・引率の部分を支援することで、教員の負担が減り、生徒が参加しやすい環境が整う

6-1.効果的に情報が発信できると思うもの

N = 25

＜集計結果＞

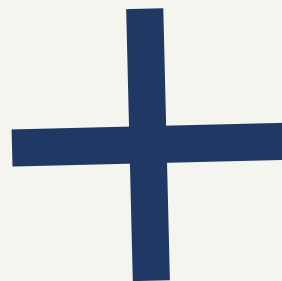


[その他の回答]

- ・校内Google Chat
- ・イベント実施団体によるプレゼン
- ・長期休暇前に募集を行い、担任紹介・掲示・連絡アプリの組み合わせ



効果的な周知・案内方法



視覚（ポスターやチラシなど）

教員からのひとこと

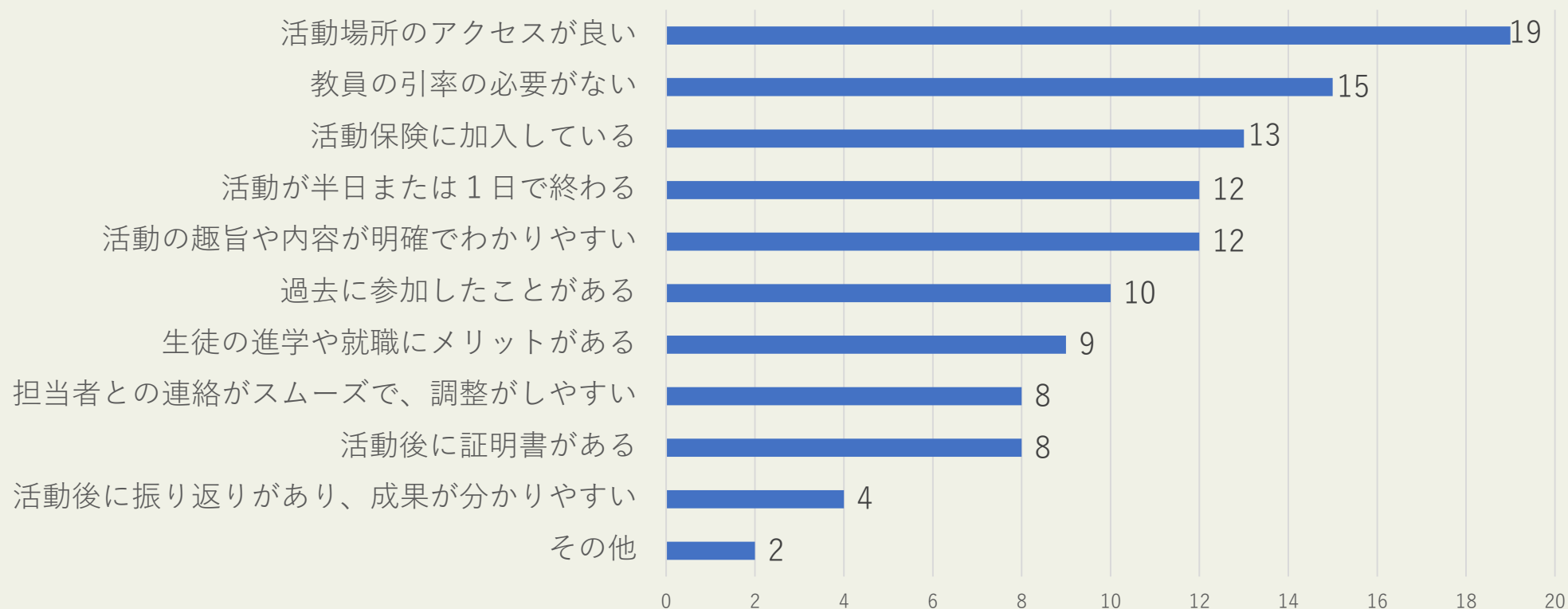
■教員が思う効果的なツールは「ポスターやチラシ + 担任のひとこと」

デジタルが主流でも、日常的に目にするポスターや内容が一目でわかるチラシと、信頼できる担任からの案内が最も効果的に情報を届けられることが読み取れる

6-2.学校として生徒に案内しやすいボランティア活動や地域活動の条件

<集計結果>

N = 25



[その他の回答]

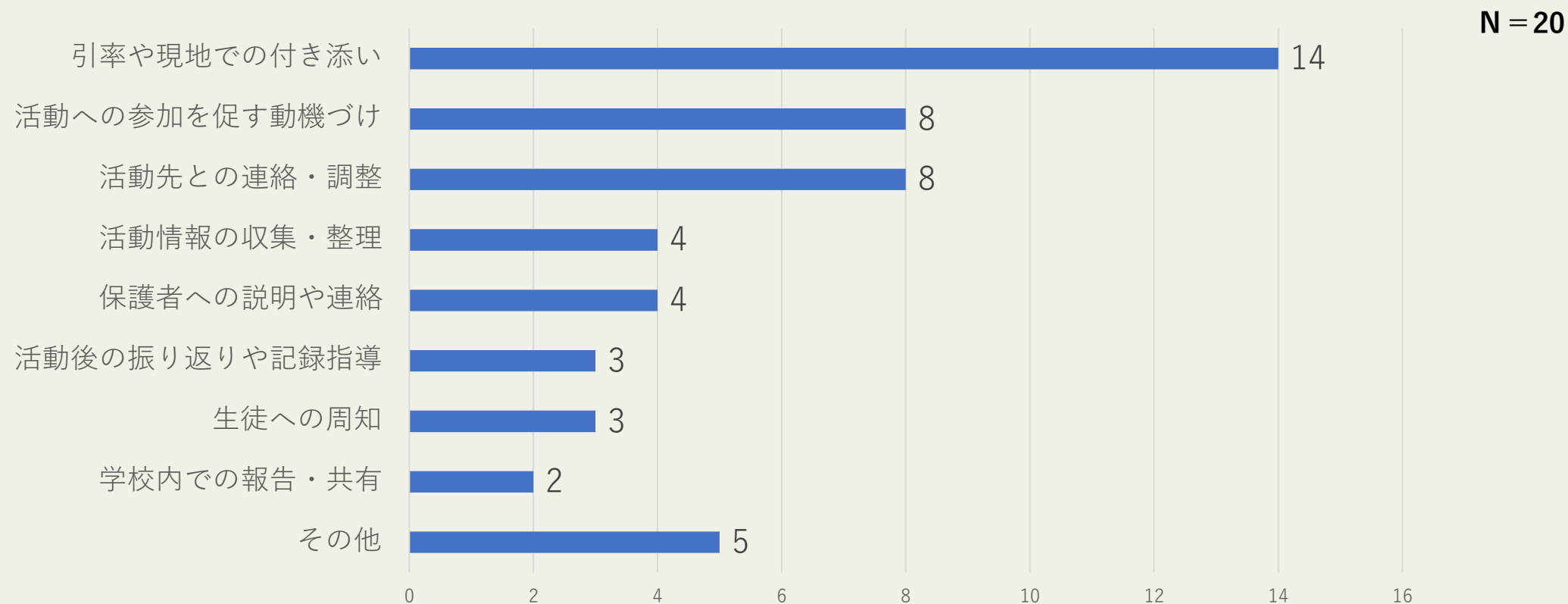
- ・長期休暇中や土日祝日の活動は、生徒の負担が大きい。
- ・重度障害のある児童生徒は教員が常に同行し、体調面から短時間の活動に限られる。



高校生が参加しやすい重要ポイント

- ✓ 活動場所のアクセスが良い
- ✓ 教員の引率の必要がない
- ✓ 活動が半日または1日で終わる
- ✓ 活動の趣旨や内容が明確
- ✓ 生徒の進学や就職にメリットがある

6-3. ボランティア活動を勧める際、負担となる業務



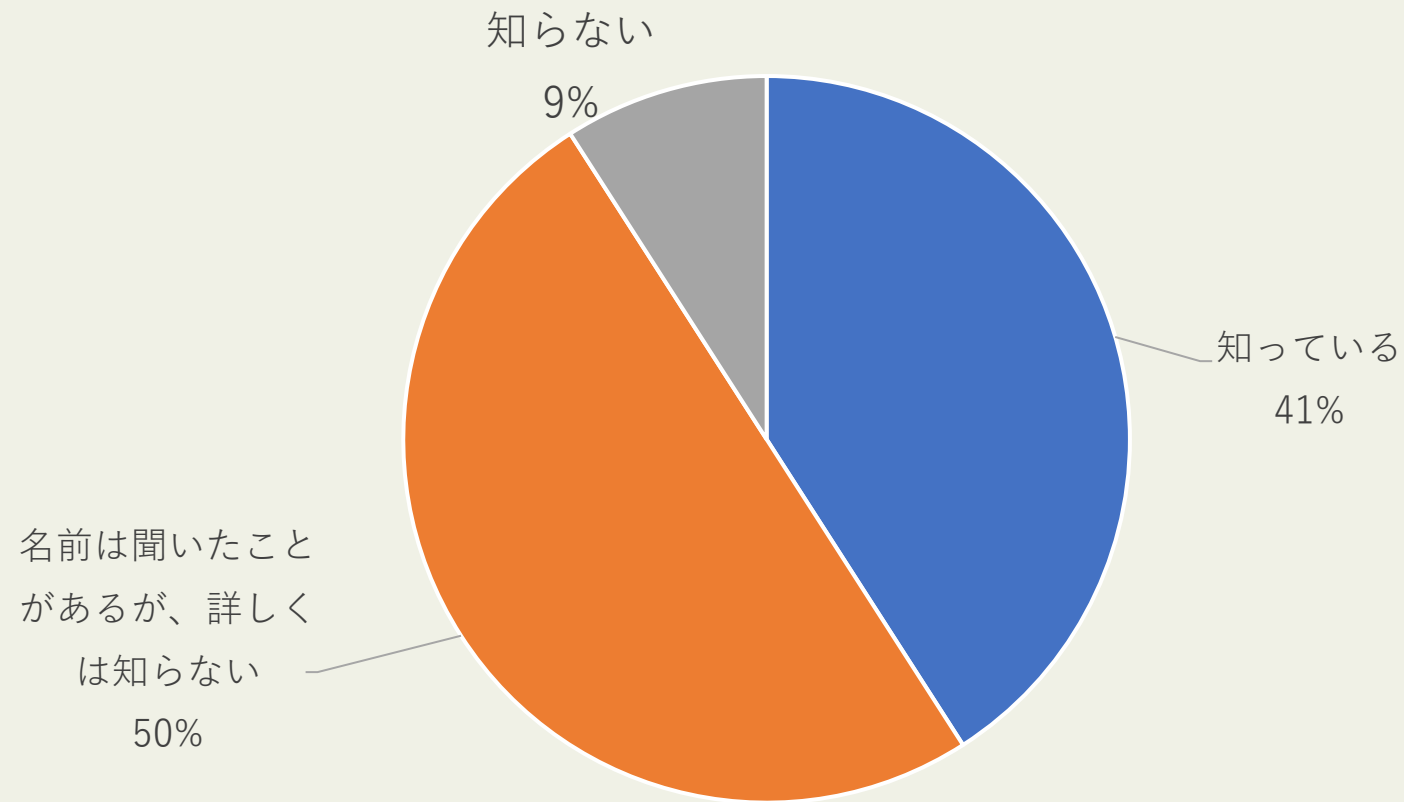
[その他の回答]

- ・ケガなどのリスク管理。
- ・校内で取りまとめて申し込む方式は負担が大きく、個人申し込みが望ましい。
- ・特になし。 ※同回答内容複数あり

7-1.市社会福祉協議会の認知度について

<集計結果>

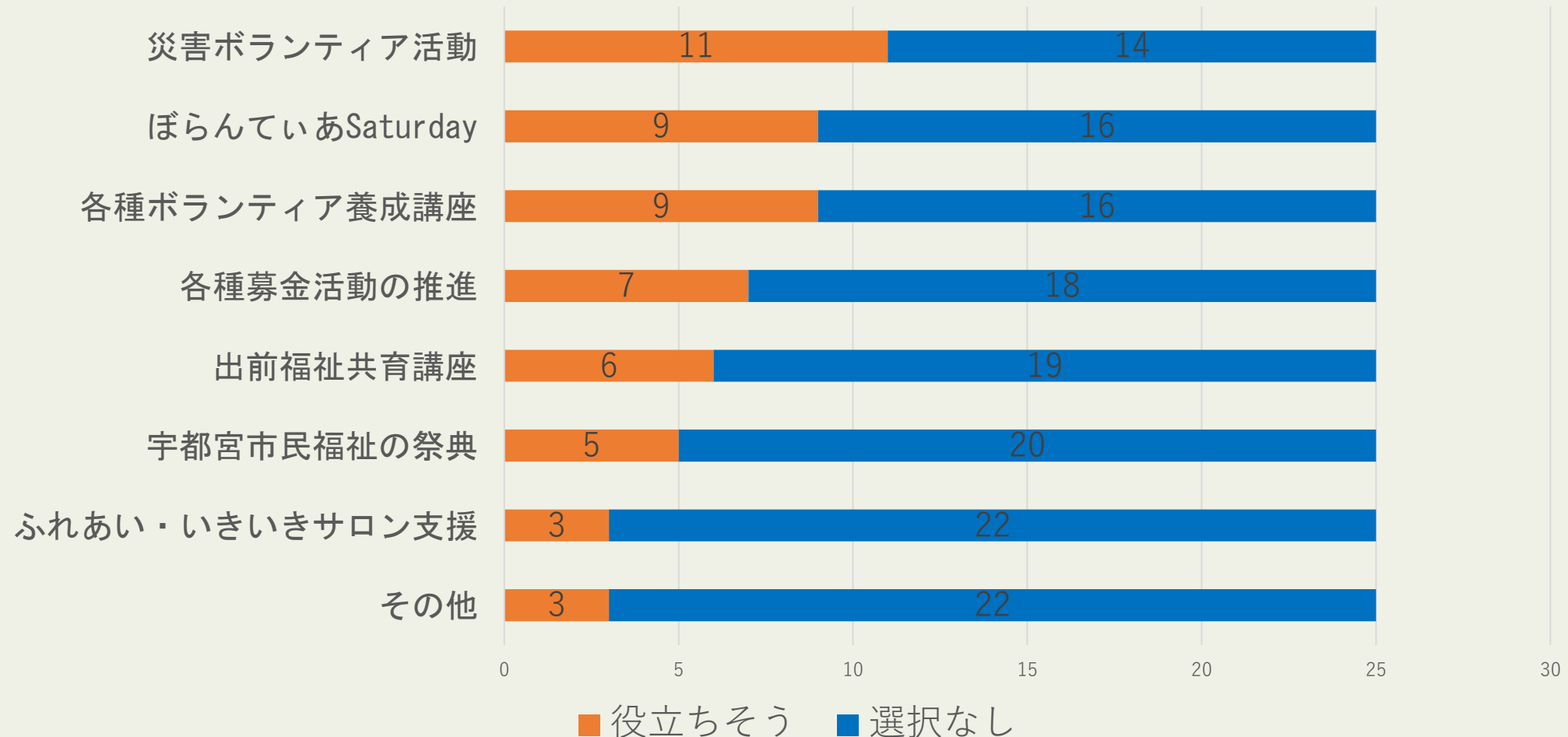
N = 25



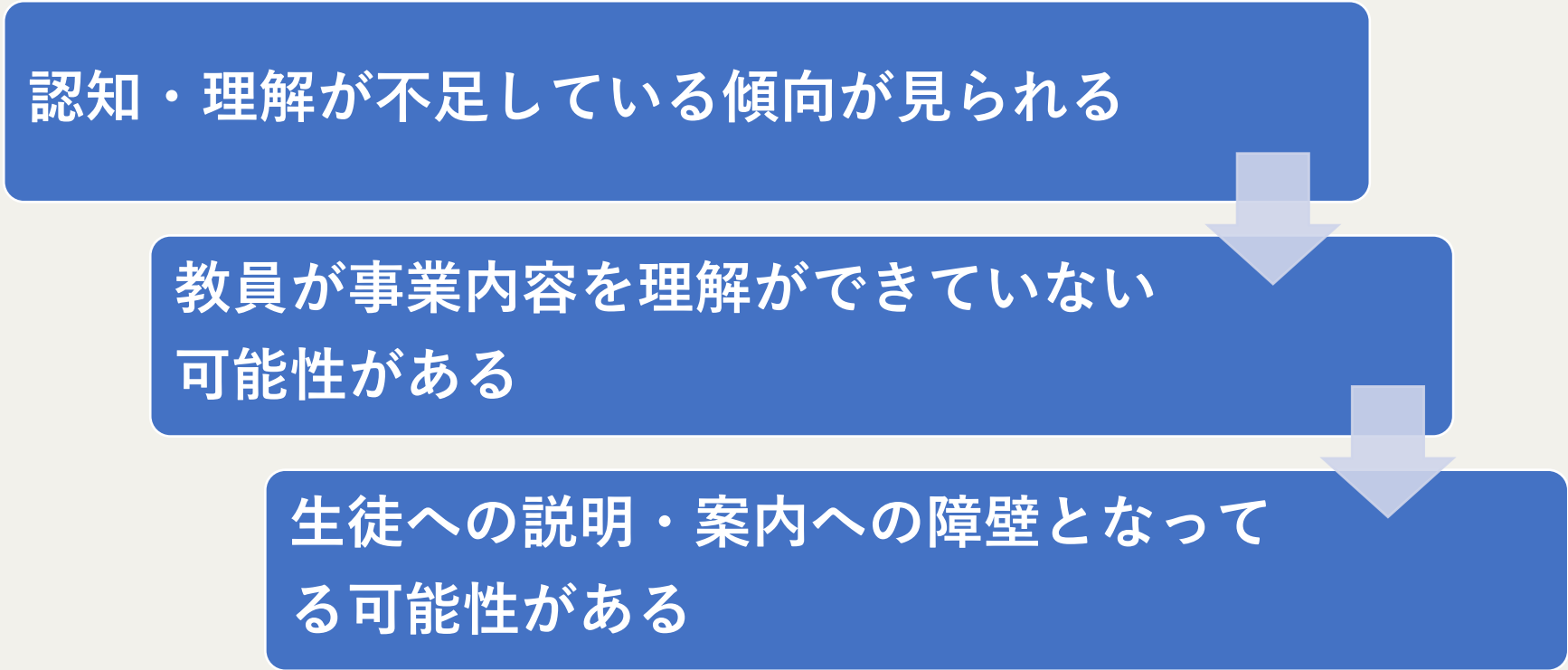
7-2.市社会福祉協議会の事業のうち、生徒に役立ちそうだと思うもの

＜集計結果＞

N = 25



認知・理解が不足している傾向が見られる



教員が事業内容を理解できていない
可能性がある

生徒への説明・案内への障壁となっ
て可能性がある

- 教員の間で社協に関する認知不足がみられ、事業内容の理解も十分に進んでいない状況にある。
- そのため、生徒への説明や案内が難しく、学校現場での活用や連携が進みにくい可能性がある。
- 市社協が実施する講座や事業内容について、学校側の理解を深めるための働きかけを強化することが求められる。

学校

ボランティアのメリット

(生徒)

- ・人間的な成長や多様な経験が得られる
- ・社会的への理解を深められる

(学校)

- ・地域との連携強化
- ・進路選択への好影響

⇒教員はボランティアに魅力を感じている

↓しかし

日程調整や企画が負担になっている

市社協の強み

資源 と コーディネート

教員の負担を
市社協が担えるかが肝

つながる必要がある



- ・災害ボランティア活動
- ・各種ボランティア養成講座
- ・ぼらんていあSaturday
- ・各種募金活動の推進
- ・出前福祉共育講座
- ・宇都宮市民福祉の祭典
- ・ふれあい・いきいきサロン支援

各事業
保険

- ・生徒にボランティアを勧める際、教員には日程調整・受入先との連絡・企画調整などの負担が生じている一方で市社協には地域とのつながりや資源のほか、企画調整力やコーディネート力などの機能を有している。
- ・ファーストステップとして、まず学校と市社協がつながり、調整業務を共有できる体制を整えることが重要。
- ・その基盤の上で、セカンドステップとして学校と地域がより円滑につながり、生徒が安全で参加しやすいボランティア活動の機会が広がり、将来的な地域活動の担い手育成につながる。

全体から見てきた課題

■ **教員の調整負担（企画・日程・連絡・引率）が大きく、活動を広げにくい。**

授業や学校行事との調整、活動先との連絡、引率、安全管理など、教員が担う業務が多岐にわたり、活動を継続的に広げる余裕が生まれにくい。

■ **生徒は情報不足や両立の難しさから参加しづらい状況がある。**

活動情報が生徒に届きにくく、授業・部活動等との両立が難しく、参加のハードルが高い。活動の意義や魅力が十分に伝わらず、参加の動機づけが弱い面もある。

■ **外部が調整・引率を担う仕組みが不足しており、参加を後押しする体制が必要。**

学校単独では調整負担が大きく、短時間・引率不要の枠組みへの需要が高い。市社協など外部が調整・引率の一部を担うことで教員負担を減らし、生徒が参加しやすい、学校・地域・関係機関が連携して情報共有や募集支援を行う仕組みづくりが求められる。

付録：設問一覧

1-1.学校名をご記入ください

1-2.ご回答いただく方のお名前をご記入ください。

1-3.貴校の地域連携教員のお名前をご記入ください。ボランティア担当者等でも問題ありません。

（回答者と同一の場合はご回答不要です）

1-4.貴校ではボランティア活動や地域活動に取り組んでいますか。

取り組んでいる →セクション2へ

取り組んでいない →セクション3へ

2-1.ボランティア活動や地域活動に主に取り組んでいる単位について教えてください。

主に学校の行事として実施している

主にJRC部の部活動として取り組んでいる

主にインターアクト部が取り組んでいる

主にボランティア部が取り組んでいる

主に福祉委員会等で取り組んでいる

その他:

2-2.ボランティア活動や地域活動に取り組んでいる理由をお答えください。

生徒の人間的な成長につながるから

生徒の他者への思いやりや優しさが育まれるから

生徒の主体性や協調性、行動力が育つから

生徒が社会の問題や多様な立場を理解する、共感する機会になるから

学校や生徒が地域住民や団体とのつながりが生まれるから

生徒が社会の一員であるという自覚や責任感が生まれるから

生徒が「社会の役に立った」という自己肯定感が高まる機会になるから

生徒の進路選択に役立つから

地域から学校に対する信頼が高まるから

学校として地域貢献を行うことが決まっているから

その他

3-1.ボランティア活動や地域活動に取り組むために学校側として課題に感じることをお答えください。

学校としての方針や位置づけが明確になっていない

授業や学校行事などで活動できる日程的な余裕がない

生徒の安全確保や引率や調整など、教員の負担が大きい

教員自身にボランティアに関する知識や経験が少ない

ボランティアや地域活動の情報がない、知らない

活動先との連携方法がよく分からない

活動先（受け入れ先）とのつながりが少ない

活動内容や意義など、参加の動機付けができない

活動先との調整に担当教員の時間が割かれてしまう

活動中の事故に対するリスクがある

活動後のふりかえりが行えず、活動の成果が見えにくい

その他

3-2.ボランティア活動や地域活動に取り組むために生徒側の視点で、課題に感じることをお答えください。

生徒に活動の情報が届きにくい

生徒の関心や参加意欲に個人差がある

授業や部活動等で、ボランティアとの両立が難しい

活動に参加するメリットが感じられない

プログラムの中身に魅力が感じられない

保護者の理解や協力が得にくい

その他

付録：設問一覧

（４） ボランティア活動や地域活動の実施主体について

4-1.ボランティア活動や地域活動を行っている団体としてあてはまるものを選択してください。

JRC部

インターアクト部

ボランティア部

家庭クラブ

福祉委員会

生徒会

その他

4-2.4-1で答えていただいた団体では、どんな活動を行っていますか。

※ない場合は回答不要です

地域清掃活動

街頭や校内での募金活動

地域イベントの参加

高齢者・障がい者施設等への訪問・交流

災害・被災地支援

防災・啓発活動

青少年赤十字リーダー研修会への参加

海外交流・国際理解活動

SDGs関連プロジェクト

校外団体との合同活動・研修参加

その他

（５） 学校全体での活動について

5-1.学校で令和５年度から現在でボランティア活動や地域活動を推進するために学校で取り組んでいる行事や活動とその具体的な内容を教えてください。

（例：学校近辺の清掃活動、近隣住民との交流事業、福祉講演会など）

5-2.5-1で答えていただいた内容に以下のテーマはありましたか。

高齢者福祉（介護・認知症など）

障害者福祉（支援制度・当事者の声など）

子ども・家庭福祉（児童虐待・子育て支援など）

地域福祉（まちづくり・自治会など）

災害福祉（避難所運営・災害時の支援体制など）

ボランティア活動の意義と実践

SDGsや福祉の国際的視点

実施していない

分からない

その他

5-3.5-1で答えていただいた内容に関して、感じる悩みや課題はありますか。

講師の選定や依頼が難しい

適切なテーマや内容が見つからない

生徒の関心が高くない・参加が見込めない

学校行事や授業との日程調整が難しい

地域団体との連携方法が分からない

企画や調整などの教員の負担が大きい。

特に理由はない・検討したことがない

その他

付録：設問一覧

（6）ボランティア活動や地域活動の周知・案内・推進について

6-1.以下の周知方法のうち、生徒にボランティア活動や地域活動の情報を効果的に発信ができると感じるものをお選びください。

校内掲示板への掲示（ポスター・チラシなど）
ホームルームや授業内での口頭案内
学校のWebサイトやポータルでの掲載
一斉メールや連絡アプリでの配信
担任・部活動顧問などからの個別紹介
その他

6-2.学校として生徒に案内しやすいボランティア活動や地域活動の条件はどれですか。

活動場所のアクセスが良い
活動の趣旨や内容が明確でわかりやすい
活動保険に加入している
教員の引率の必要がない
過去に参加したことがある
生徒の進学や就職にメリットがある
活動後に振り返りがあり、成果が分かりやすい
活動後に証明書がある
担当者との連絡がスムーズで、調整がしやすい
活動が半日または1日で終わる
その他

6-3.地域連携教員（ボランティア担当）として ボランティア活動や地域活動を生徒に勧める場合、負担とを感じるものはどれですか。

活動情報の収集・整理
生徒への周知
活動への参加を促す動機づけ
保護者への説明や連絡
活動先との連絡・調整
引率や現地での付き添い
活動後の振り返りや記録指導
学校内での報告・共有
その他

（7）市社会福祉協議会について

7-1.市社会福祉協議会が、 ボランティア活動や地域活動を推進していることを知っていますか。

知っている
名前は聞いたことがあるが、詳しくは知らない
知らない

7-2以下の社会福祉協議会の活動のうち学校として、生徒の学びや成長に役立ちそうだと思うものをお選びください。

災害やサマーボランティアスクールなどの講座（各種ボランティア養成講座）
車いす体験や手話などの学校等への出張授業（出前福祉共育講座）
学生や社会人が参加しやすい週末ボランティア講座（ぼらんていあSaturday）
災害時の支援（災害ボランティア活動）
地域住民の居場所支援（ふれあい・いきいきサロン支援）
赤い羽根共同募金の街頭募金活動など（各種募金活動の推進）
宇都宮市民福祉の祭典
その他
その他ボランティア活動や地域活動に関して課題に思うことや相談したいことなど
ございましたらご記入ください